

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成25年度採択分）
 「アジアを拠点に世界に発信する環境微生物学研究のトップジャーナルを目指した取組」
 （課題番号：252017）

学術団体名：日本微生物生態学会
 学術刊行物の名称：Microbes and Environments
 事業期間：平成25年度～平成29年度

1 取組の概要

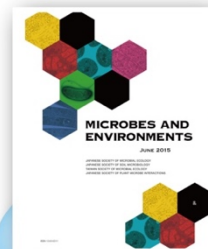
・取組内容の特徴と目的、意義及び方法 国際学術雑誌「Microbes and Environments」は、Web of ScienceおよびPubMedに収録されている我が国唯一の環境微生物学分野の研究成果を発信する完全オープンアクセスジャーナルである。2009年にImpact Factor (IF)が付与されて以降、IF=1.9～2.4で推移しており、一定の評価を得た。本取組では、向こう5年以内を目処にアジア地域から発信する環境微生物学分野のトップジャーナルの地位を確立するべく以下の目標を掲げる。

・応募時に設定した取組の目標・評価指標

- (1) 外国人編集委員の割合を増員し編集体制を国際化
- (2) 国内・国外の5学会との連携編集体制の拡大
- (3) 投稿論文の質的向上のための対策強化
- (4) 審査プロセス・システムの効率化
- (5) 年間120報前後の良質な論文の掲載

MICROBES AND ENVIRONMENTS

—環境微生物学分野のオープンアクセスジャーナル—



- ・国際連携編集体制：
日本微生物生態学会 (JSME)
日本土壌微生物学会 (JSSM)
台湾微生物生態学会 (TSME)
植物微生物研究会 (USPMI)
- ・Impact Factor 1.9-2.4
- ・編集委員の1/3が海外
- ・迅速な審査プロセス

目標：アジア地域から発信する環境微生物学分野のトップジャーナルとしての地位確立

2 目標の達成状況

・現在までの目標の達成状況

- (1) 全編集委員に占める国外編集委員の割合が33%に達した。
- (2) 台湾微生物生態学会、日本土壌微生物学会、植物微生物研究会の3学会と連携編集体制を構築している。
- (3) Impact factorは2.424 (2013年)、2.231(2014年)と安定的に推移している。全受理論文に占める国外著者論文は、2012年の32%から、2015年は60%にまで増加した。PubMed Central経由の論文閲覧・ダウンロード回数は2014年7月に515件であったのが、2015年9月には約7,000件と大きく躍進した。ただし、ダウンロード数の大幅増がIFに効果をもたらすか否かについてはまだ経過を見守る必要がある。
- (4) 投稿からfinal decisionまで平均42日という短時間での審査プロセスを達成している。
- (5) IFのさらなる上昇、すなわち国際的な認知度の向上のためには上質な論文の掲載が不可欠である。助成期間の中期段階では年間80報程度の掲載論文数を目指していたがIFの維持のため60報程度に抑えている。

・今後の計画

- ・国内外の著名な環境微生物学分野の研究者から、良質な原著論文や総説を募り、IFのさらなる上昇を目指す。
- ・引き続き、国内学会との共同編集体制を強化するとともに韓国や中国等、アジアの国々の投稿を促す施策の実施が必要。
- ・国内外編集委員による論文審査基準を共有するとともに各国からの投稿数を増やすために国際編集会議を実施する。
- ・国際学会等での積極的な宣伝活動を実施する。

